

保護者の皆様へ

## 令和4年度 全国学力・学習状況調査の市全体の結果について

袋井市では、幼小中一貫教育の仕組みを生かし、子どもたちの「考える力」を高めるための授業づくりを進めています。子どもたちは学習課題と向き合い、問いに対する様々な考えを「比較」したり、「関連付け」たりしながら自分自身の納得のいく考えを見出していきます。これが袋井市の学校が目指す授業です。子どもたちが自ら「考える力」を伸ばしていけるよう、学校では今回の調査結果を分析し、これからの授業改善に繋げていきます。

この調査では、子どもたちの学力だけでなく、日々の生活や学習の状況調査も行っています。それにより、規則正しい生活習慣や日常的な読書習慣と、子どもたちの学力との関係性が明らかになりました。学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを支援していくことが、子どもたちの成長には欠かせません。保護者の皆様のお力添えをどうぞよろしくお願いいたします。

本年度の調査結果と分析  
について説明します。



### 1 調査の概要について

- (1) 実施日 令和4年4月19日（火）
- (2) 対象 小学校6年生（775名）、中学校3年生（845名）
- (3) 実施内容 国語・算数（数学）・理科の学力調査  
学習状況調査



**学力調査**は、子どもたちが身に付けるべき学力の一部を測定したものです。すべての学力を表したものではありません。

**学習状況調査**とは、子どもたち自身の学習に対する意識や、日常の生活習慣等の実態について調査したものです。

## 2 学力調査と学習状況調査の結果について

### (1) 学力調査

	小学校			中学校		
	国語 (14問)	算数 (16問)	理科 (17問)	国語 (14問)	数学 (14問)	理科 (21問)
<b>袋井市</b>	<b>64</b>	<b>60</b>	<b>60</b>	<b>67</b>	<b>50</b>	<b>49</b>
全国	65.6	63.2	63.3	69.0	51.4	49.3

※ 袋井市の結果については、整数での集計となっています。上記の結果は、問題の軽重に関係なく、全問題のうちの正答した割合（平均正答率）を示したものです。

### (2) 学習状況調査

① 肯定的な回答の割合が高かった主な項目	小学校	中学校
人が困っているときは、進んで助けていますか。	<b>90.8</b>	<b>92.0</b>
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	<b>97.0</b>	<b>95.5</b>
友達と協力するのは楽しいと思いますか。	<b>95.4</b>	<b>95.0</b>

② 肯定的な回答の割合が昨年度より高くなった主な項目	小学校		中学校	
	本年度	昨年度比	本年度	昨年度比
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。	<b>83.6</b>	+2.9	<b>82.3</b>	+1.2
自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。	<b>92.6</b>	+4.3	<b>89.5</b>	+2.2
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	<b>82.3</b>	+7.3	<b>83.8</b>	+5.6

③ 肯定的な回答の割合が全国と比べて高かった主な項目	小学校		中学校	
	袋井市	全国比	袋井市	全国比
今住んでいる地域の行事に参加していますか	<b>76.8</b>	+23.9	<b>72.0</b>	+32
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。	<b>82.3</b>	+8.8	<b>83.8</b>	+6.9
学級活動における学級での話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。	<b>80.1</b>	+6.3	<b>80.1</b>	+8.4

※ 上記の結果は、肯定的な回答をした児童生徒の割合を示したものです。

### 3 分析

#### (1) 学力調査

小学校	国語	○物語文の大まかな内容について選択する問題は、他の問題と比べ正答率が高い。 ●自分の考えを内容や形式等の条件に合わせて書く問題は、他の問題と比べ正答率が低い。
	算数	○基本的な計算の問題や図や表から規則性を見つける問題は、他の問題と比べ正答率が高い。 ●考えたことを式や図に表したり、説明したりする問題は、他の問題と比べ正答率が低い。
	理科	○生き物を分類分けするなど、基本的な知識を問われる問題は、比較的解くことができる。 ●実験の方法を説明する問題は、他の問題と比べ正答率が低い。

中学校	国語	○よりよい話合いの進め方を選択したり、伝わりやすい表現に修正したりする問題は、他の問題と比べ正答率が高い。 ●登場人物の心情について文章で書き表す問題は無答が多い。
	数学	○文字式の計算やグラフから数値を読み取る問題は、他の問題と比べ正答率が高い。 ●課題解決の方法を、資料を根拠としながら説明する問題は、他の問題と比べ正答率が低い。
	理科	○生き物の体のつくりについて、その生き物の生活の仕方と関連付けて考える問題は、他の問題と比べ正答率が高い。 ●実験の方法を説明したり、結果をもとに考察したりする問題は、他の問題と比べ正答率が低い。

#### (2) 学習状況調査

- |                                                                                              |                                                                      |
|----------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・人が困っているときは進んで助ける。</li> <li>・友達と協力するのは楽しい。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人の役に立つ人間になりたいと思う。</li> </ul> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|

⇒ これらの項目は、90%以上の児童生徒が肯定的な回答をしており、子どもたちの中に思いやりの心や公共心が育まれていると考えられます。

- |                                                                                                      |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・今住んでいる地域の行事に参加している</li> <li>・自分と違う意見について考えるのは楽しい。</li> </ul> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------|

⇒ これらの項目は、全国平均に比べて、また毎年肯定的に回答する児童生徒の割合が高くなっており、対話を通じ他者を認めることや、自分の住んでいる地域を大切にしていることの表れだと考えられます。

(3) 正答率が高い児童生徒に見られる傾向（学力調査と学習状況調査の結果より）

- ・朝食を毎日食べている。
- ・平日、1日当たりのテレビゲームの時間が2時間未満である。（小学校）
- ・平日、1日当たりに携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴をする時間が1時間未満である。（中学校）

⇒ 規則正しい生活習慣は、学習内容の定着に大きく関わっていると考えられます。

- ・学校の授業時間以外に、1日当たり30分以上読書をする。
- ・読書が好きである。

⇒ 読書時間が多く、なおかつ読書が好きと答える児童生徒は記述式の問題における正答率が高い傾向があり、読む・書く力が高まっていると考えられます。

- ・自分と違う意見について考えるのが楽しい。

⇒ 友達と議論し学び合うことで考えが深まります。袋井市はこの項目の肯定率が高くなっています。

#### 4 今後の取組

学力調査の結果から…



理由をつけて自分の考えを書いたり、説明したりすることが課題

学習状況調査の結果から…

「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と感じている子が多い



これらのことから、大切にしていきたい授業は・・・

#### 【友達と話し合うことを通して、自分自身の納得のいく考えをつくる授業】

袋井市では「袋井型授業づくり」に取り組んでいます。「袋井型授業」とは…

- ① 子どもが考えたくなるような、「？」型の学習課題を設定する。
- ② 自分自身の考えを深めるために、対話や議論の場を設定する。
- ③ 学習課題に対し、自分自身の納得のいく考えを書く時間を設定する。

家庭での過ごし方についても、ぜひお子さんと話し合ってみてください。

